



2学期「目標や課題の実現・解決に力を合わせ、互いよさを学び合う」学期

## 『凡事徹底』

校長 岡部 良美

この言葉をお聞きになったことがありますか。「ぼんじてっい」と読みます。意味は、「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと、または、当たり前のことを極めて他人の追随を許さないこと」です。

この言葉が特に有名となったのは、今から3年前の夏の全国高校野球甲子園大会で優勝したチームの監督へのインタビューからでした。監督の座右の銘は『凡事徹底』。「今年のチームはこれまでのチームとどこが違うのか。」という質問に対して監督は次のように答えました。「毎朝、散歩しながら15分間のごみ拾いをしているんですけど、今年はそういうことをきちんとできるチーム。本物とはそういう平凡なことも、きちんとできるチームのことだと思うんです。」監督や選手に、強さの理由についてたずねても、「特別なことは何もしていない」と繰り返し答えていました。

さて、10月15日の運動会。私は6年生の組体操の演技を見ていて、まさしくこれが『凡事徹底』だと実感しました。

例年、運動会では、6年生が行う組体操はすべての種目の注目の中心です。6年生は練習や本番を通して達成感を強くもち、1年生から5年生は6年生の演技のすばらしさに目を見張り、あこがれをもつことにつながりました。保護者のみなさんをはじめ、見る人すべての心を感動させてきました。特に全員でつくるピラミッド、高さのあるタワーなどの大技は、完成した時に大きな拍手が起こりました。しかし、報道にあるように、組体操の練習時等に起こる子供のけがが起きるたびに、組体操への問題点が指摘され、自粛の流れが大きくなりました。今年度の運動会から組体操をとりやめた学校もありました。

今年度の組体操は1つの提案でした。高さや大きさの見栄えではなく、子供の運動能力や体育学習の学習内容を踏まえた一つ一つの技で構成しました。子供一人ひとりがイメージをもち、心を込めて、力強く、しなやかに、きびきびと動きをつくったり、次の技への移動をしたり、かけ声を合わせたりなど、自分の役割に応じた動きをすることにより、一体感と感動を表現する演技となりました。例え簡単な技に思えても、一つ一つの技を大切にしっかり行うこと、誰でもできることを誰よりも練習し続けてよりよいものを追求していくこと、この成果が今年度の組体操に表現されていました。大東小の子供のすばらしさです。

☆組体操は危険ということは知っていたので、初めは不安でいっぱい、なかなか技ができなかったのですが、協力して声かけしたり、先生にアドバイスを頂いたりして、少しずつできる技が増えました。絶対に失敗しない、けがをしない、という意志をもって練習・本番の演技に取り組むことができました。

☆練習が始まったときは不安でした。練習のあと毎日反省をして次の日に生かすことを繰り返してきました。すると当日は自然と今までやってきたことをやるだけで、ぜんぜん緊張しませんでした。

【6年生のふり返しカードより抜粋】

### ○【主な給食使用食材の産地についてのお知らせ 10月】

お米（青森県産 まっしぐら）牛乳（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、千葉）大根（北海道）キャベツ（群馬）小松菜（練馬区・埼玉）じゃがいも（北海道）長ねぎ（秋田・山形）きゅうり（千葉）えのき（長野）にんじん（北海道）ごぼう（青森）白菜（長野）次郎柿（練馬区）なし（新潟）鶏肉（岩手）豚肉（青森）大豆（北海道）しらす干し（高知）鮭・さんま（北海道）